

中央大学中長期事業計画「Chuo Vision 2025」を策定

学校法人中央大学は、創立130周年を機に、今後10年間の中央大学中長期事業計画「Chuo Vision 2025」を策定しました。①複数の新学部の創設、②文系学部の一部(法学部)の都心キャンパスへの移転、③グローバル化の推進、などを基本方針としています。10月24日(土)評議員会承認後、11月9日(月)に報道発表、本学日本語サイトに概要の掲載を行い、新聞各紙へ掲載、テレビでも放映されました。

■ 学部増設による総合大学としての魅力向上

今後新学部構想検討委員会(仮称)を設置し、多摩キャンパスで2019年頃の創設に向けて申請の準備を進めてまいります。

■ 二大キャンパス体制の形成

後楽園キャンパスを中心に、複数の都心キャンパスを整備、集約するとともに、多摩キャンパスと二大キャンパスを形成し、充実・発展を目指します。文系学部の都心移転の第一候補を法学部とし、2022年の完成を目指しています。

■ グローバル化の推進

「グローバル・プロフェッショナル」の概念を掲げ、すべての科目を英語等で教えるグローバルFLP (Faculty-Linkage Program)や国際共同学位、国際共同研究ネットワークの構築など、国際通用性の涵養と専門分野の学修を両立させるカリキュラムの構築を目指します。



焼きたてのパンの香りがするカフェ空間での朝食が可能



たくさんのメニューから好きなものを自由に取り分けられるビュッフェ形式を導入



以前フラットがあった場所は大きなガラス窓を利用して、開放感と明るさを取り入れた空間に

■ 白門プロムナードを改修

モノレール駅から多くの来訪者のメインアプローチである白門プロムナードの大部分のレンガタイルを、高硬度で割れにくいうえ、降雨時でも滑りにくく、歩行感の優れた石英成型板へと改修しました。既存のレンガタイルと調和する同色系濃淡3色を使い、大きさや貼り方にもこだわること、グレード感を創出しました。

大学の顔として、安全なうえ、来客や学生に対してより高いホスピタリティーの精神で迎え入れる空間へと変化を遂げました。

■ 3号館にパウダールームを設置

3号館女子トイレの一部を、学内初の着座タイプのパウダールームへ改修し、清潔で落ち着いた空間にしました。女子学生比率の高い文学部棟に新設しましたが、全女子学生が利用できるスペースとし、化粧直しなど快適に身だしなみを整えられる場となりました。天埋め型の空気清浄機(ナノイー)を導入し、また内壁の一部にニオイの成分を吸着し、脱臭・軽減するエコカラットを採用して安心して過ごせる空間としています。



帰宅前に立ち寄ったという文学部生は「うわさを聞いて見にきました。きれいな空間でびっくりしました。」と話す。

■ グリーンテラスにイルミネーションを設置

学会からの寄贈によりグリーンテラスにイルミネーションが設置されました。点灯式は10月25日(日)に開催されたホームカミングデーで行われ、そのまま常設されています。夕刻には温かいシャンパンゴールドの灯りで、帰路につく学生を送り出します。



グレード感のある床材に一新された様子

■ 9号館のトイレを改修

老朽化しているトイレを順次計画的に更新しており、今年度は竣工以来改修していない9号館を改修対象としました。大ホールにふさわしい落ち着いた照明、木目調の材料を用いることで気品あるレストルームとしました。

男女の入口をわかりやすく分け、入口付近には木目ルーバーを設置し、内部レイアウトの変更と内外装を一新することで、文化的、知的活動を多く行う9号館にふさわしい空間としました。女子トイレに曲線の空間を作り、パウダースペースを創出しました。



女子トイレに曲線の空間を作り、パウダースペースを創出